

平成 16 年度 全国漁協交流集会 報告

～ 赤潮・異常気象に備えを！ 漁業経営の支えに『ぎょさい』を！～



7月26日(月)香川県高松市において、「平成16年度 全国漁協交流集会(加入推進協力員研修会)」を開催し、北は北海道から南は沖縄県まで全国15道県から漁協長など約70名の参加をいただきました。(8月4日付 水産経済新聞に特集記事が掲載)

議事は、パワーポイントを使用したプレゼンテーション形式で「漁業共済事業の概要」を本会事務局が説明した後、特別講演に入りました。

特別講演 として、嶋野勝路庵治漁協組合長(香川県共済組合長、全かん水会長(写真))が「魚類養殖業とぎょさい」と題して講演を行い、デフレ経済、輸入水産物の増加による魚価安などの厳しい状況の中で生産者として自助努力を行っているが、それだけでは解決できないのが「自然の猛威」である。自然を相手にする職業であるので災害は避けられず、特に全国どこかで必ず発生する赤潮被害について自身の経験も交えて説明。昨今の異常気象など「生産者の努力」だけでは解決できない問題を解決する一助になるのが「ぎょさい」であるとし、「備えて守る意識に立ち、養殖業を取り巻く厳しい環境、漁業全体を取り巻く状況を『ぎょさい』を利用することで乗り切っていこう」と呼びかけ、最後に「漁業を継続して行える状況を作り、後継者にとってすばらしい産業として譲っていこう、国民の貴重なタンパク源を供給している誇りを胸に明日への第一歩を『ぎょさい』

よさい』を使って歩んでいこう」と力強く訴えました。

特別講演 として、服部郁弘引田漁協組合長（香川県漁連会長）が「香川の漁業とぎよさい」と題して講演を行い、香川の漁業といえば県魚であるはまちの養殖であり、はまち養殖発祥の地であることやはまち養殖の概要を説明。また、「ぎよさい」は赤潮など自然災害に特化した商品の追加、新たな養殖魚種の追加、掛金納入方法の改善など生産者の声を形にした制度改正が行われ、加入しやすい環境は着実に整ってきていると評価。県信漁連では、魚類養殖の資金融資の条件に「ぎよさい」があり、養殖業者・信漁連双方にとってメリットがあることを説明。昨年の赤潮被害の経済的被害を最小限に食い止めることができ、再生産につながられたのも「ぎよさい」によるものであると思うと述べました。最後に「生産者はもとより漁協系統全体で、もしもの時は『ぎよさい』しかないことを 1 人でも多くの生産者に理解してもらえるようにしたい」と訴え、講演を締めくくりました。